

第3 まちの方の声

1. 町民ヒアリングとワークショップ

1) 2019 年度「リサーチ&職員研修」

2019 年 8～10 月 町民へのヒアリング



砂金掘り、アンモナイト
発掘、狩猟や鮭釣りなど
自然を活かしたしごとや
あそびがある

図書館の本が充実
し、自由学習の場が
あるといい

まちなかにある食堂と
銭湯が集いの場となっ
ている

2020 年 1～2 月

役場職員による町民インタビュー



全国的にみても先進
的なライドシェアの
取り組みをしている

若い移住者の暮らしを
地域の高齢者がサポー
トしている

すでに地域に多様な働き方をしている人がいるが、実態を知らない人が多い

2020年3月

町民へのインタビューをまとめた映像を
発表する「おしゃべり上映会」開催



まちの声- 教育

- ・英語教育が充実している
- ・放課後子どもプランが助かる
- ・高校進学を選択肢が少ない

まちの声- しごと

- ・事業承継が大きな課題
- ・職種の選択肢が増えるといい
- ・発信できる特産品や技術が必要

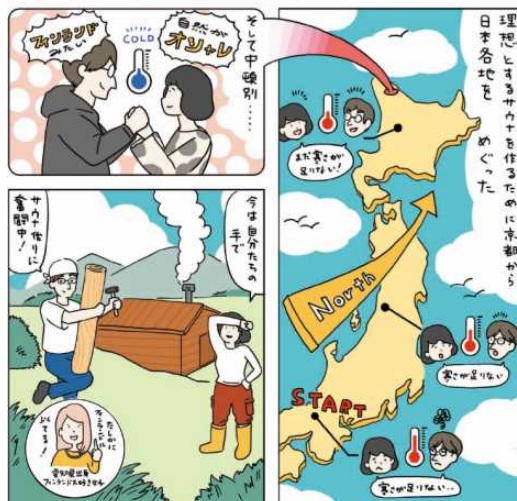
まちの声- 福祉

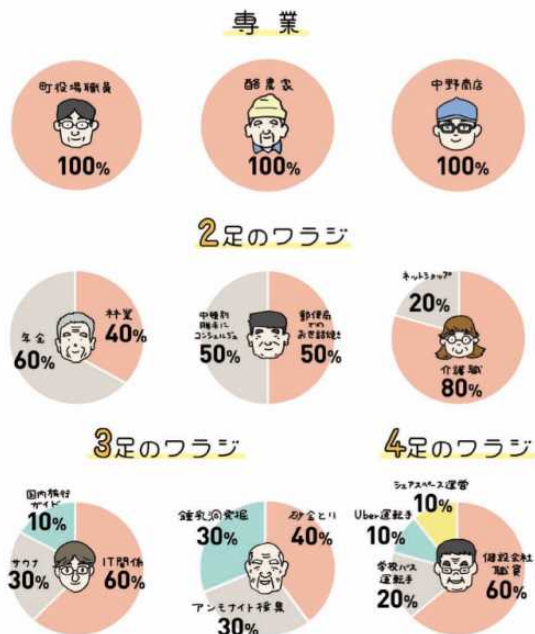
- ・保健師さんが非常に親切
- ・検診や予防接種など補助が手厚い
- ・病院が遠い

まちの声- つながり

- ・隣近所同士が気にしあっている
- ・まちのためにやりたいと思うことをみんなが力を貸してくれる

まちのみなさんへのヒアリングをもとに
中頓別町の魅力をマンガにしました！





グラフの内容や割合は、あくまでもヒアリングで感じたstudio-Lの印象や視点によるものです。

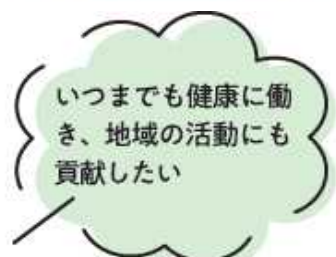


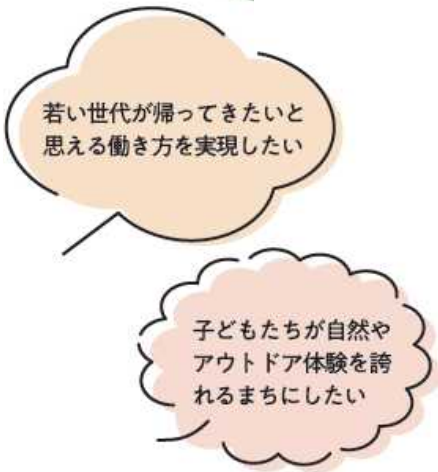
2) 2020 年度「アイデアから活動づくり」
2020 年 8 月
キャラバン隊による人生の分岐点と
暮らしのアイデアをヒアリング



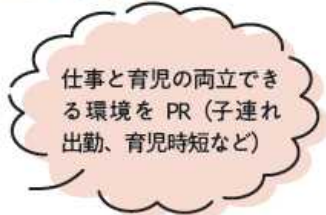
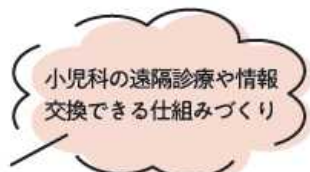
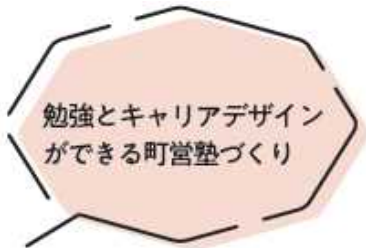
<多様な働き方>

「はたらく」には、お金を得るための「かせぎ」だけでなく、
地域に貢献する「つとめ」や、
暮らしの楽しさにつながる「あそび」が含まれると捉えています。

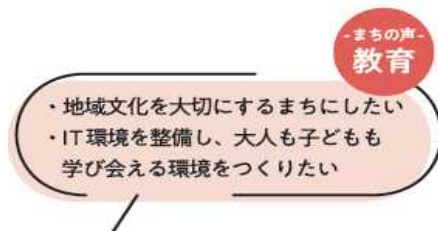




2020年9月～2021年3月
町民ワークショップから
7つのアクションが誕生



2021年3月
7つのアクションの協力者を募集する
ため「アイデア上映会」を配信



～まちの声～
教育



2021 年 9 月 動画撮影



2021 年 10 月 総合計画中間報告会

3) 2021 年度「活動の実践と計画策定」

2021 年 6 月

7つのアクションの実践に向けた話し合い



2021 年 7 月

人生の分岐点にかかわるまちの
スポットについてヒアリング



2022 年 3 月 第 8 期総合計画完成

2. 町民アンケートの調査結果

1) 幸福度アンケート調査

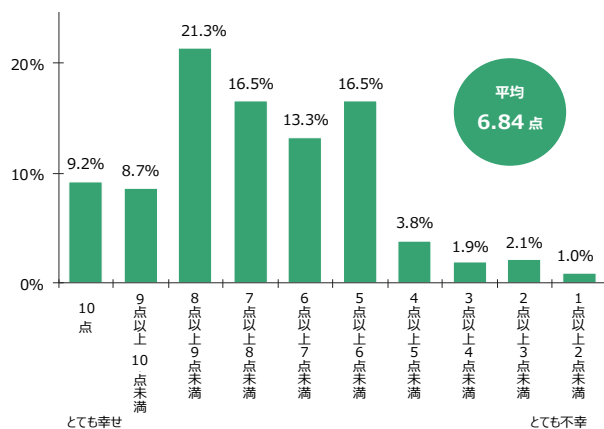
総合計画の達成度や町民の幸福度を時系列順に測るため、今回よりパネル調査という手法により、「町民幸福度アンケート」を実施しました。

この調査は、同じ回答者が複数年度に渡り、同じ設問に回答していただき、その変化を追跡して分析調査を行うもので、記名いただいた調査票は 520 件（有効回答率 35.7%）でした。

質問) 幸福だと感じている「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 1 点として今の心境は何点ですか。

- ①「8 点」 21.3%
- ②「7 点」と「5 点」 16.5%
- ③「6 点」 13.3%

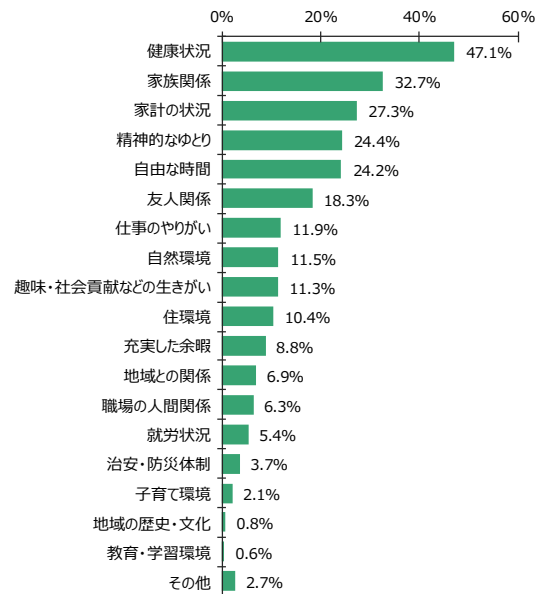
※全体の平均は 6.84 点でした。



質問) 幸福と判断する際に重視することは何ですか。

- ①「健康状況」 47.1%
- ②「家族関係」 32.7%
- ③「家計の状況」 27.3%

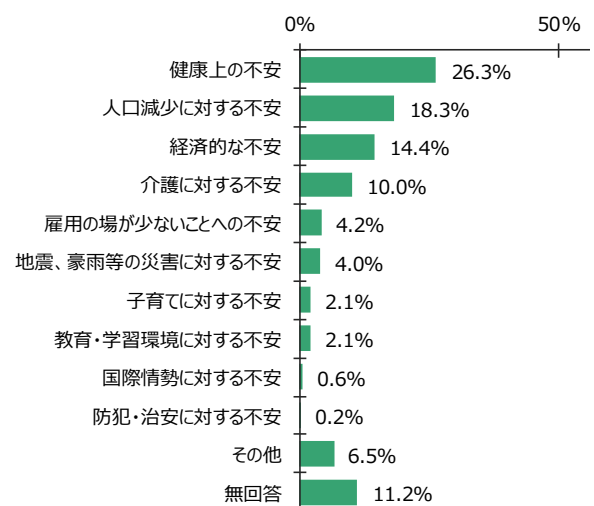
※30 代以上の各年代が健康を重要視。年代別にみると「自由な時間」、「精神的なゆとり」、「友人関係」を選ばれていました。



質問) 日常の暮らしの中で“不安”を感じることはなんですか。

- ①「健康上の不安」 26.3%
- ②「人口減少に対する不安」 18.3%
- ③「経済的な不安」 14.4%

※年代別に見ると、「健康」を選択した方の多くは 50 代以上で、さらに 70 代以上になると「介護」について選択される方が多い。年齢が 10 代～40 代の方になると「人口減少」と「経済」に不安を感じられていました。



2) 町民アンケート調査

16 歳以上を対象として調査を実施しました。

**まちへの愛着は約6割、
暮らしやすさに不満は約4割。**

まちに愛着を感じている人は約6割いる一方、暮らしやすさに課題を感じている人は約4割でした。

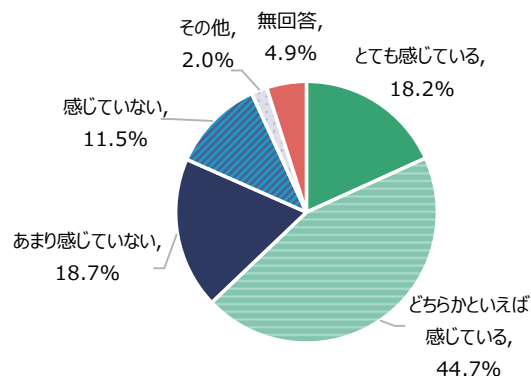
**満足度の高い取り組みは、
福祉・自然環境・子育て支援。**

保健・医療、自然環境保全、子育て支援・子育て環境の整備に関わる取り組みが特に満足度が高いという回答でした。

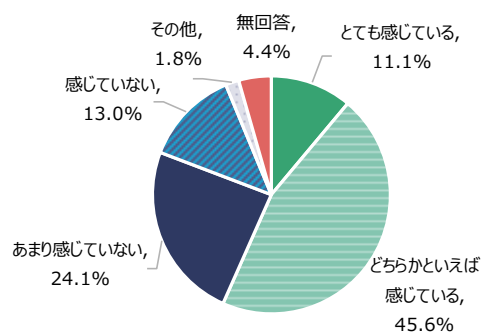
**課題は交通・町民活動・
商工業。**

公共交通、町民生活や活動、買い物などの商工業が特に重要という回答でした。

質問) まちに愛着を感じていますか。

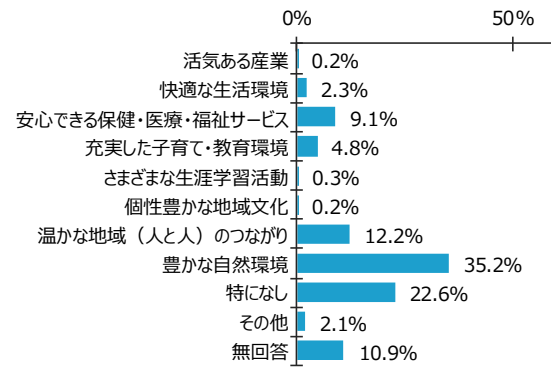


質問) まちに暮らしやすさを感じていますか。



質問) この町の誇れるものは何ですか。

- ①「豊かな自然環境」 35.2%
- ②「特になし」 22.6%
- ③「温かな地域（人と人）のつながり」 12.2%



※年代別に回答割合をみたところ、どの年代も「豊かな自然環境」を選択されていました。また、20代と30代では、「充実した子育て・教育環境」を選択されており、これまでの子育て環境の充実を目指した取り組みへの高評価をいただけていると推測します。80代以上の方は「安心できる保健医療福祉」を選択されている割合が多い結果となっています。

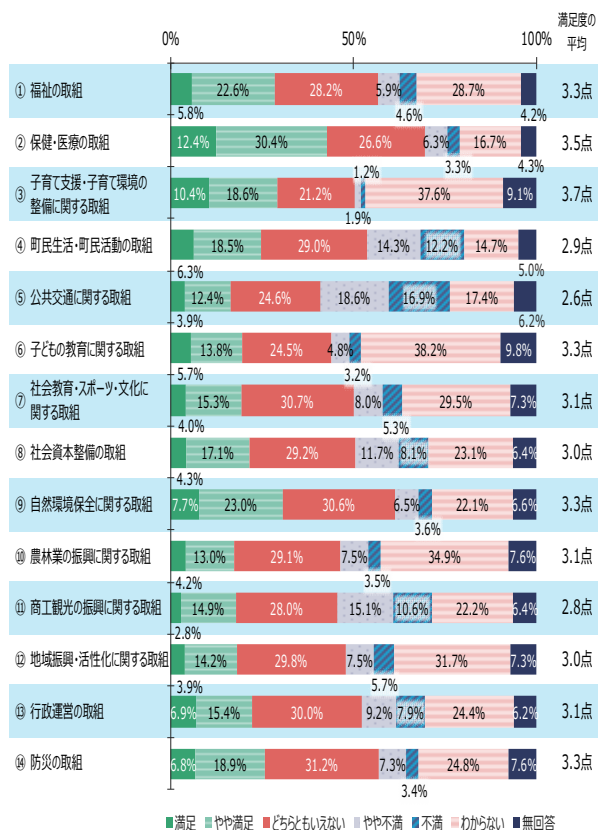
質問) まちづくりの取り組みで、満足と思える項目は何ですか。（「満足」と「やや満足」を合わせて集計）

- ①「保健・医療」 42.7%
- ②「自然環境保全」 30.7%
- ③「子育て支援・子育て環境の整備」 29.0%

※この満足度を点数化してみた時の上位に、「子育て支援」が3.66ポイントとなり、前回（H28）アンケート結果と比較すると0.3ポイント上昇しています。

質問) 一方で、不満と感じている取り組みは何ですか。（「不満」と「やや不満」を合わせて集計）

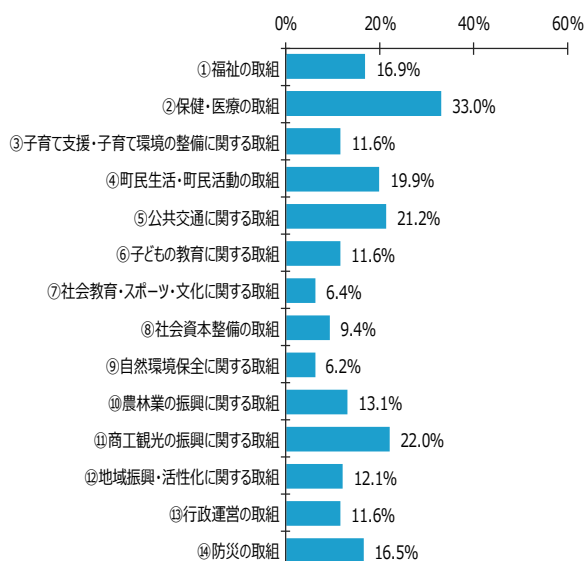
- ①「公共交通に関する取組」 35.5%
- ②「町民生活・町民活動の取組」 26.5%
- ③「商工観光の振興」 25.7%



質問) まちづくりで特に重要だと思う取り組みは何ですか。

- ①「保健・医療」 33.0%
- ②「商工観光の振興」 22.0%
- ③「公共交通」 21.2%

※満足度では低い「公共交通」と「商工観光の振興」が今後のまちづくりに期待がされているという集計結果でした。



<個別意見から今後の課題をキーワードとして抽出>

【教育・子育て】

- 子育て世代の母親と父親の負担感軽減
- 学校の建て替え含め教育環境の改善
- 老朽化した建物の改善・施設の更新
- 育児と仕事の両立ができる働く場づくり

【仕事・観光】

- 観光資源のさらなる有効活用
- 商店の継続となる支援

【医療福祉】

- 地域医療の工夫といざという時の通院できるシステム

【生活】

- きめ細かな除雪

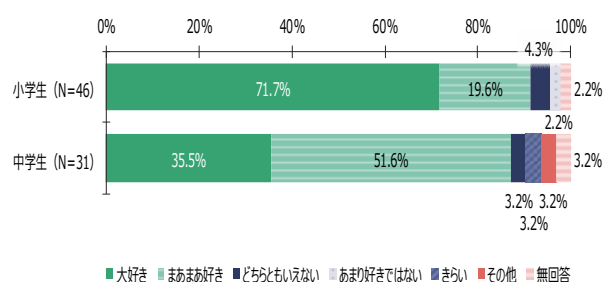
3) 子どもアンケート調査

3年生以上の小学生及び中学生を対象に調査を実施しました。

まちへの愛着はあるが、大人になっても住み続けられると想像できない。

多くの小中学生がまちが好きと回答している。一方、小学生の多くが大人になっても中頓別に住みたいと回答しているのに対し、中学生は大人になっても中頓別に住みたいと回答している割合が少ない。

質問) まちが好きですか。

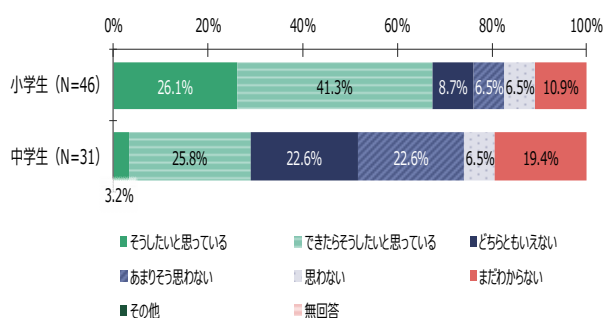


小学生は「大好き」71.7%と最も多く、

前回（平成 28 年）実施時と比較して、21.7 ポイント上昇。

中学生では、「大好き」が 35.5%と 2 番目に多い回答。前回（H28）よりも 19.2 ポイント上昇しました。

質問）大人になっても中頓別に住みたいですか。



大人になっても住みたいと思っている割合が小学生では67.4%、中学生では29.0%でした。

※「そうしたいと思っている」と「できればそうしたいと思っている」を合わせて集計。

質問）もし町長になったらどんなことに取り組みたいですか。（上位3つ）
「ゴミのないキレイなまちにする」
「店を増やす」
「人口をもっと増やす取り組みをする」

3. 地域で暮らし続けるための 4つの基本課題

町民のみなさんの意見から、地域で暮らし続けるためには、様々な分岐点をのりこえていく必要があることがわかりました。その中でも特にポイントとなる4つを基本課題として抽出しました。

1) 進路選択の分岐点

15歳で、町から通える学校か、町外かを選択する戸惑い。

高校の進路を選択するとき、進学先だ

けでなく、将来のキャリアについても想像できると選択の不安が和らぎます。

将来のキャリアが
イメージできない

高校など若いうちから、
地元に離れて暮らすため
地域のことを知らない

地元は好きだけど
暮らし続ける姿が
想像できない

詳しくみる

自宅から通学できる高校は1校しかありません。その高校に進学するか、地元から離れて都市部の高校に進学するかという、将来に関わる大きな選択の時となります。

都市部の高校に進学した子どもたちの多くは、将来、地域に戻ってくることは少ない傾向があります。しかし、地域の現状や町民の想いを踏まえると、Uターンを促進するための取り組みを実施することも大切ですが、子どもたちの様々な進路の選択を応援し、必要な時にはいつでも戻ってこられる環境を整備することが求められています。

そのためには、進路の選択を前に、子どもたちとともにふるさとについて知り、将来のキャリアについて話し合い、それを地域で応援できる教育メニューの充実、幼小中一貫とする教育機能の確保、これらの土台となる教育施設の更新といった環境づくりが必要です。

2) 定住の選択の分岐点

仕事や家は大切、地域に友達がいるかも同じくらい大切。

地域に友達や誘ってくれる人がいると、この町で暮らしていけるかもしれないという自信になります。

地元と同世代の
友達が少なく寂しい

移住してきて、
知り合いがいなかったが、
誘ってくれる人がいて
のりこえられた

詳しくみる

若い世代や子育て世代の定住には、地域で暮らすための仕事や住まいが欠かせませんが、仕事や住まいがあっても定住につながらない心理的な課題があります。

若い世代や子育て世代の女性が地域で暮らしていけるかどうか判断する分岐点のひとつとして、地域に友達や誘ってくれる人がいるかどうか重要な要素になります。

3) 職業選択の分岐点

多様な働き方ができることが知られていない。

雇われる仕事が前提であれば地域の仕事は限られます。自分でつくりだす仕事へのチャレンジが大切です。

職種の違う人たちと
交流する場や機会が
少ない

市街地周辺の

IT環境が整っておらず、
酪農などでITを
活用できない

詳しくみる

医療福祉や農業など地域に仕事はありますが、その選択肢は限られています。一方、地域には起業や副業、在宅ワークなど多様な働き方をしている人がおり、そのような働き方ができることが地域の子どもたちや若い世代にあまり知られていません。

雇われる仕事が選択肢の前提であれば地域の職業の選択は限られています、自分でつくりだす仕事も選択肢に含めて考えることができれば、職業選択の幅は広がります。地域はそのようなチャレンジを応援することが求められます。

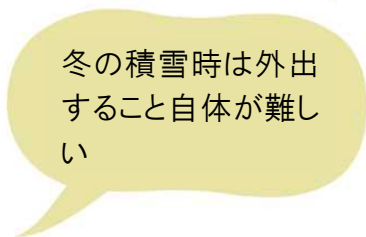
4) 末長く暮らし続ける選択の分岐点

交通の不安と ICT※活用への
心理的ハードル。

車の運転が難しくなり、交通の不安を感じた時に、高齢となった時の生活が不安になります。ICTの活用は課題解決のカギです。

車なしでは買い物や
病院に行けない

ICTやスマホに
苦手意識のある人が多い



冬の積雪時は外出
すること自体が難し
い

詳しくみる

高齢になっても地域で暮らし続けるためには、交通、買い物、医療、除雪、住まいなど様々な課題があります。路線バスなど公共交通機関の利用や、マイカーの運転が難しくなり、交通手段の選択肢が少ないと思ったときに不安を感じ、地域で暮らし続けることができるかどうか心配になります。

現在もライドシェアなど、高齢になっても地域で暮らし続けるための取り組みが実施されていますが、今後はさらなるICTの活用や施設入所だけではない、自宅に近い環境で安心して暮らせる環境づくりが求められています。